

① 千鳥丘中 淡路尚広

笹島中 日々野佑哉

助光中 野々垣好宏

滝ノ水中 刈谷瑛美

すすんで問題に取り組む生徒の育成

1 研究のねらい

「レベル別問題」を活用した「自由進度学習」を通じて、生徒の実態に合わせた指導や支援を行うことで、成長の実感をもたせ、すすんで問題に取り組む生徒を育成する指導法を模索する。

2 研究の内容

(1) 生徒の実態（抽出校第1学年130名を対象に意識調査を実施）

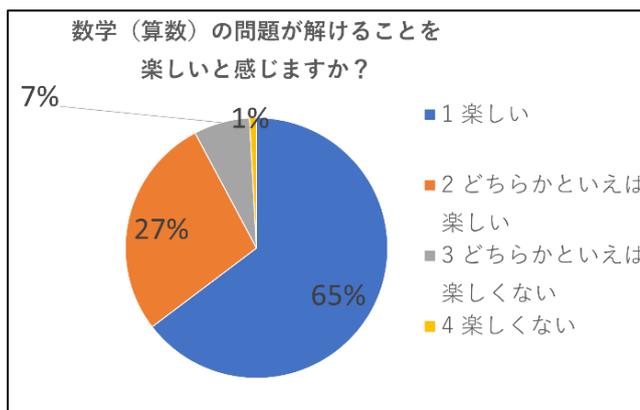
年度当初に行った学力検査の数学の偏差値平均が46.3となっており、基礎的な計算力に課題をもつ生徒が多くいると考えられる。

【資料1】は「数学（算数）の問題が解けることを楽しいと感じるか」という問いに「楽しいと感じる」と答えた生徒が65%いた。

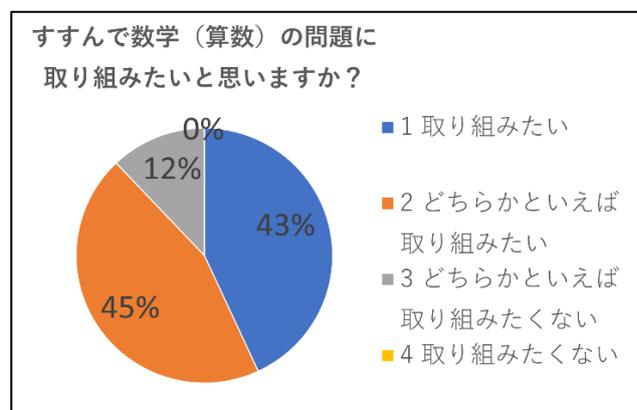
【資料2】は「数学（算数）の問題にすすんで取り組みたいと思いますか」という問いに「取り組みたい」と答えた生徒が43%いた。解けることが楽しいと感じている生徒に比べて、すすんで問題に取り組みたいと考えている生徒は少ないことが分かった。

また「数学（算数）の問題を自分が解ける問題か気付くことができるか」という問いに「できる」と答えた生徒は5割以下であった。

これらの結果から、一人ひとりの理解状況や能力、適性に合わせて、生徒自身が解く問題を選択し、選択した理由を明らかにして自由進度学習を行っていく必要性を感じた。



【資料1】



【資料2】

(2) 指導の具体化

奈須(2021)は、「すべての子どもは生まれながらにして有能な学び手であり、適切な環境と出会いさえすれば、自ら進んで環境に関わり、その相互作用の中で自ら学びを進め、深めていく存在である」と述べている。また、「子どもを信頼し、学びに関わるより多くの決定を子どもに委ねるべきで、学校と教師には、個別最適な学びであれ、協働的な学びであれ、子どもが自立的に学び進められるとともに、展開される学びに十分な広がりや深まりが生じるような豊かな学習環境の整備や場の設定が求められる。」と述べられていることから、生徒が自律的に学び進められる学習環境の整備や場の設定をしていきたい。

また、中央教育審議会答申(2021)では、従来の日本型学校教育を発展させ、「令和の日本型学校教育」の実現を目指すために、新学習指導要領の着実な実施とICTの活用が必要だと示された。新学習指導要領では、「個に応じた指導」を一層重視し、指導方法や指導体制の工夫改善により、「個に応じた指導」の充実を図るとともに、ICT環境の活用、少人数によるきめ細やかな指導体制の整備を進め、「個に応じた指導」を充実させていくことが重要だと示していることから、GIGAスクール構想におけるタブレットの活用を模索していきたい。

また、蓑手(2021)は、「自由進度学習であれば、自分のレベルでどんどんと学習を進められるので、常に刺激的な課題に向き合え、できなかったことができるようになることで成長実感を味わえる」と述べており、「自由進度学習をする上で、子どもたち同士が教え合い、学び合える環境設計が重要である」と述べている。このことから、「单元内自由進度学習」の中で「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体化させる活動を行っていきたい。

(3) 授業実践について

ロイノートなどのICT機器を活用して、個別にレベル別の問題を選択して学習に取り組みせることや、選択した問題ごとに話し合い活動を行うことなどを検討している。

【参考文献】

奈須正裕『個別最適な学びと協働的な学び』東洋館出版社(2021)

中央教育審議会答申『「令和の日本型学校教育」の構築を目指して』(2021)

蓑手章吾『自由進度学習のはじめかた』学陽書房(2021)